千葉県食品ロス削減ネットワーク会議における意見交換のための資料（2021.10/26）

フードバンクちば

● フードバンクちばについて

2012 年 5 月ワーカーズコープちばを母体に設立した任意団体　今年は 10 年目の節目になります。
昨年末には広い場所を確保するため商業施設「ハーバーシティ蘇我」にある「花の駅そが」公園内の元店舗に活動の拠点を移しました。
千葉県内の企業・団体、ご家庭の余ったしまった食品（いわゆる食品ロス）を無償でご寄贈いただき、施設や子ども食堂等の団体には直接、生活に困窮されている個人・世帯へは困窮者の支援機関を通じて無償で提供しています。
これまで社会福祉協議会との連携を軸に、生活協同組合やロータリークラブ等のたくさんの方々のご協力のもと、活動を続けてきました。

● 食品ロスの現状と課題について

昨年の実績は下記の通りで、コロナ禍の影響が寄贈量・支援量双方に大きな影響が出ています。

【 寄贈量 】　役立てたい！協力したい！

73.1 トン(前年比 **137%** ⬆)

団体から　のべ　**217 団体 31.4 トン**(前年比 **134%** ⬆)

個人から　**41.7 トン**(前年比 **140%** ⬆)

【 支援量 】　食べるものに困っている！助けてほしい！

59.1 トン(前年比 **143%** ⬆)

団体へ　のべ　**412 団体　35.6 トン**(前年比 **173%** ⬆)

個人へ　のべ　**2,030 件.　23.5 トン**(前年比 **114%** ⬆)

フードバンクちばの特徴として、事業系の食品寄贈も多くはありますが、家庭や職場内からの食品寄贈が他のフードバンク団体に比べて多くなっています。
フードバンクちば主催、千葉県社会福祉協議会共催で年 3 回定期的に行っているフードドライブ＜食品の回収＞では、県内に約 100 ヶ所の窓口を設け、毎回 10 トン以上の食品を集めています。また近年 CSR や SDG’s の観点からも食品ロスへの関心は高まっており、様々な主体（社協・生協・企業・学校等）によるフードドライブの取り組みが広がっています。

銚子丸

ジェフユナイテッド市原・千葉

千葉ロータリークラブ

損保ジャパン株式会社

JFE スチール株式会社

千葉県内の生協との取り組み

こうして集まった食品は、生活に困窮されている個人・世帯へ毎日 10～30 件、宅配便で配送しています。個人への食品支援は、困窮者支援のツールとして今では欠かせないものとなっています。
養護施設や母子支援施設、子ども食堂等の団体には、ニーズに合わせてその都度提供しています。コロナ禍の長期化で若い世代の困窮が問題になっており、学生への支援も広がりつつあります。

個人支援用に箱詰めされた食品。宅配便で翌日には当事者のもとに届きます。

定時制高校への支援

ちば産学官プラットフォームと連携して 10 私立大への支援

フードバンクの活動は、寄贈する側からも提供される側からもお金は生まれない活動です。今のところも公的な支援はありません。食品の保管場所の維持・配送・運営等にかかる経費は寄付や会費、様々な助成金を基盤にしています。毎日の活動は無償のボランティアの方々に支えられています。
しかしながら、寄贈・支援の規模が広がっていく中で、資金もマンパワーも追いついていません。今後、持続可能な活動として継続していくためには、地域全体が関わっていく活動として体制を整えていかなければなりません。

＜フードバンクちばが必要とすること＞

・余剰食品の寄贈、特定の支援に対しての食品の調達（学生支援や被災地支援等）
・物流や在庫管理等への情報提供や技術的な後方支援
・活動維持のための資金援助（寄付・サポート会への加入・補助金等の確保等）
・ボランティアの強化

● 啓発の実施方法について

「フードドライブ」の取り組み

フードドライブは、市民一人ひとりが食品ロスの問題を身近に捉え、実際に参加することができます。社会全体の取り組みとして、千葉県としても啓発活動や運営にも主体的に関わっていただければと思います。

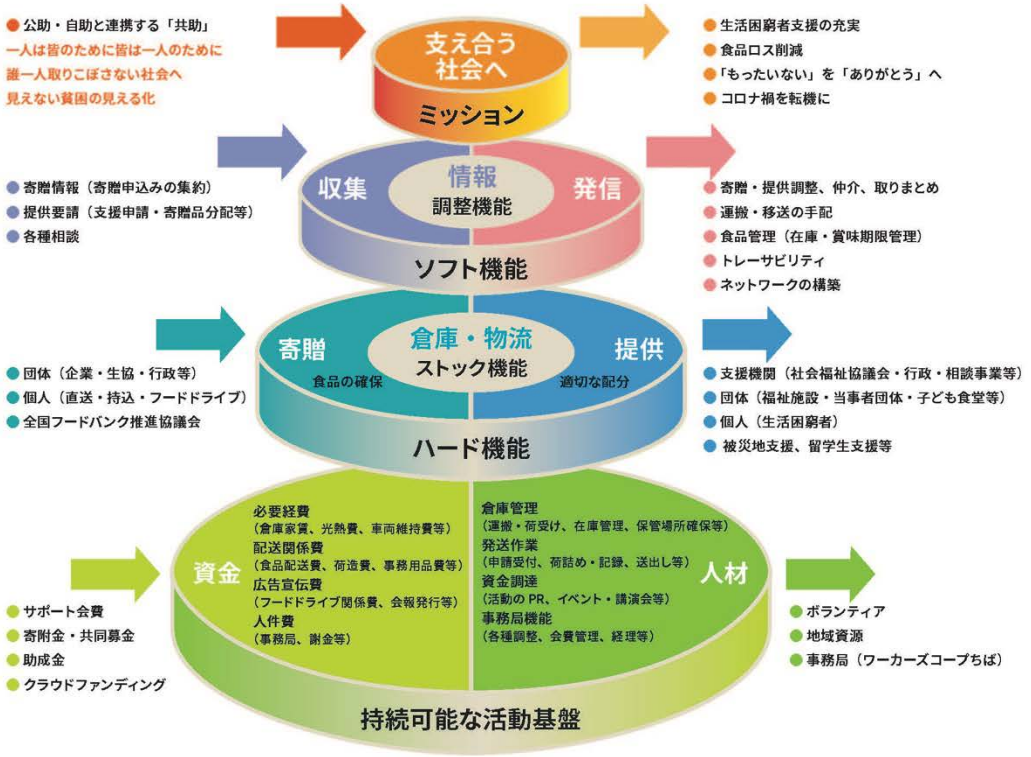
「千葉県におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業」

フードバンクちばは、今年の 7 月から 3 年間の期間で休眠預金を活用した「千葉県におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業」の実行団体に採択されました。下記 3 つの柱に基づいて、フー

ドバンク活動を千葉県内で将来的にも有効な活動として機能させていくことを目的としています。

① 業務の IT 化による業務負荷の軽減・平準化ーソフト機能の拡充

② 物流サテライト拠点の整備（県内３ヶ所）ーハード機能の強化

③ 中核的フードバンクのプラットフォーム機能の充実

地域全体で支え、支えられる活動として、たくさんの方々に関わったいただき、皆さんと一緒に食品ロスと貧困の問題に向き合っていきたいと考えています。